清流の国ぎふ 防災・減災センター

第５回防災活動大賞

令和５年３月

センター長挨拶

清流の国ぎふ 防災・減災センター主催の第５回防災活動大賞選考会開催にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

この“防災活動大賞”は、県民の皆様の防災力アップの参考にしていただくために、岐阜県内の防災活動を募集し、公開選考会で“防災活動大賞”を選出するというものです。

コロナ禍が明け、平常に戻りつつあった昨年に防災活動を取り組まれた９つの団体から応募を頂戴しました。参考までに、第１回では 25 件、第２回では 12 件、第３回では８件、そして昨年度の第４回も８件の応募がございました。

今回は、小学校、中学校、高校、そして大学から報告があります。また、中津川市から２件、高山市、大垣市、垂井町からそれぞれ１件、報告があります。

皆様の活動の参考になると思いますので、よろしくお願いいたします。

清流の国ぎふ 防災･減災センター長　杉戸　真太

副センター長挨拶

日頃より、自治会、学校、ご家庭など、各地域の防災活動、普及啓発に取り組んでいただき、厚く御礼申し上げます。

最大震度７を観測した能登半島地震から、2 カ月を過ぎました。新聞や報道でもご覧のとおり、被災地では、多くの建物の損壊や長期にわたるライフラインの途絶、集落の孤立が発生し、いまなお、多くの方が避難生活を余儀なくされています。

幸いにも、県内では、大きな被害はなかったものの、南海トラフ地震といった大規模な災害発生に備え、防災・減災への取組みが重要であることは言うまでもありません。

平時から「防災活動」を各地域で展開し、地域の方の防災意識、災害への備えの行動力を高めていくことが重要であると感じています。

今回で 5 回目となる「防災活動大賞」は、県内の防災活動を広く募集し、地域での防災活動の取組の参考としていただくものです。皆様には、防災活動大賞にエントリーされた各地域の活動事例から、新しい発見や気づきを得ていただき、今後の活動に活かしていただきたいと存じます。

また、「清流の国ぎふ　防災・減災センター」では、防災リーダー育成研修や防災の交流の場となる「げんさい楽座」などを開催しております。

皆様方にもこうした場を活用いただき、防災の仲間づくりや防災知識の向上に役立てていただければ幸いに存じます。

県としましても、市町村の防災対策や避難対策への支援を通じて、引き続き、地域防災力の強化に取り組んでまいりたいと考えております。

清流の国ぎふ 防災･減災センター　副センター長　内木　禎
（代理　岐阜県危機管理部次長　海蔵敏晃）

第４回防災活動大賞　実施概要

【　募集期間　】

2023 年 11 月～2024 年 3 月 4 日

【　応募対象　】

応募することのできる活動は、以下の（１）～（４）をすべて満たすこととします。

（１）岐阜県内で取り組んでいる活動であること(頻度、回数は問いません)。
（２）活動する者は団体、個人や公共、私的を問いません。
（３）活動の結果が防災・減災に関する取り組み内容であること。(寄与のレベル、度合いや活動の難易度は問いません。間接的に防災・減災に関する取り組みであるケースも含みます。)
（４）電子メールによる連絡及びファイルの送受信が可能であること（携帯電話会社が提供するメールアドレス以外の電子メールであること)。

【　公開選考会　】

（１）冒頭に 60 秒ずつの自己紹介を発表者が行いました。
（２）その後、ポスターセッション方式により活動の紹介を行いました。
（３）これらを踏まえて、来場者(40 余名)による投票を行いました。
（４）また、清流の国ぎふ防災・減災センター関係者による選考を別室で行い「防災活動大賞」を４点選出しました。
（５）上記選考で選出されなかった５団体の中で、上記「(３)」の上位 1 点を「みんなの特別賞」に選出しました。
（６）当日のタイムスケジュールは以下の通り

開催日：2024 年 3 月 17 日(日)

13:30　開会挨拶
13:40　タイムスケジュールと選考ルールの説明
13:45　発表者自己紹介
13:55　ポスター発表
14:50　投票・休憩
15:00　自由交流
16:00　表彰式(表彰：能島副センター長)
16:30　閉会

【　選考結果　】

選考の結果は以下の通りです。

≪　防災活動大賞　≫
以下４点を防災活動大賞としました。

（応募受付順に掲載）
中川地区防災士会（大垣市）
身近な危険を知り みんなで作る安全　～町の「安全マップ」作り～
大垣南高等学校
防災×探究　～ふるさと教育の一環として～
飛騨市立神岡中学校
みんなとつながる・みんなに広める防災
～自分と周りの大切な命を守れる存在になるために～
垂井町東地区なまずの会
ⓝかまと　ⓜちを　ⓩっと守ろう

≪　みんなの特別賞　≫
以下１点を「みんなの特別賞」としました。

岐阜大学学生保安消防隊＆災害医療大学
カードゲームと身の回りの日用品を活用！
クリエイティブで遊びながら学べる防災教室を

当日の様子

発表者・防災活動大賞審査員の面々

中川地区防災士会（大垣市）

大垣南高等学校

飛騨市立神岡中学校文化部

垂井町東地区なまずの会

受賞団体による説明の様子

応募作品一覧

（応募受付順に掲載）

団体	主な活動範囲	タイトル
①　加子母防災士会	中津川市加子母地域	地域全体の自助の力を高めるために
②　ＮＰＯ法人防災士なかつがわ会	中津川市全域	自主防災会として最も重要なこと： それは安否確認方法の確立と継続実施
③　中川地区防災士会（大垣市）	大垣市中川地区	身近な危険を知り みんなで作る安全 ～町の「防災マップ」作り～
④　大垣南高等学校 チーム　美女と輪中	大垣市浅中地域と 海津氏日新地域	防災×探究　～ふるさと教育の一環として～
⑤　御嵩町立上之郷小学校	御嵩町立上之郷地区	「自分の命は自分で守る」子の育成
⑥　岐阜大学学生保安消防隊　＆ 災害医療大学	岐阜市全域	カードゲームと身の回りの日用品を活用！ クリエイティブで遊びながら学べる防災教室を
⑦　飛騨市立神岡中学校文化部	飛騨市立神岡中学校	みんなとつながる・みんなに広める防災 ～自分と周りの大切な命を守れる存在になるために～
⑧　垂井町東地区なまずの会	垂井町東地区	“なかまと　まちを　ずっと守ろう” （垂井町東地区なまずの会）
⑨　TMBJ（高山まちづくり協議会 防災士女子会）	高山市全域	子ども達に防災の大切さを伝える防災士女子会

ポスター集

全 9 品のポスターを次ページ以降に収録します。

地域全体の自助の力を高めるために

【活動内容の特徴】

地域住民の「自助」の意識を高くする取組

①富山大学准教授の協力による活断層「阿寺断層」の情報の提供。②自分自身でできる減災対策を体験する場の提供。③小中学生が災害時に生かせる体験活動の支援。など、地域の住民が自分のこととして防災減災をとらえることを大切にした。

【団体の紹介】

- 中津川市加子母地域
- 令和元年７月～現在(５年目)
- 現在の会員人数(実働10人／全31人)
- 加子母地域内に住む防災士によるボランティア集団
- ロゴマークはささゆりをモチーフに

【アピールしたい防災活動の成果】

地域住民の防災意識の向上に貢献できた

・阿寺断層の現地見学などをふくめ最新情報を多くの住民に提供できた。
・10地区中8地区で延べ9回家具等転倒防止講習会を実施できた。
・小中学生が防災を自分のこととしてとらえる機会となった。

河川敷の断層を見学する参加者たち(写真右)

【活動内容の詳細】

活断層「阿寺断層」の情報提供

地域を縦断する活断層「阿寺断層」について、富山大学の安江准教授に指導を受けて、現地見学を含めた研修会を3回にわたって行った。参加者は延べ約100名(写真上)。

各地区で行った家具転倒防止講習会の中で、阿寺断層に関する情報を提供した(写真上)。

自分自身でできる減災対策体験の場の提供

家具の固定やガラスの飛散防止フィルムを貼る作業を体験する機会(写真左)として地区ごとでの講習会を９回開催した。延べ約200名の参加。

小中学生が災害時に生かせる体験活動の支援

小学校では、6年生のロケットストーブを使用した炊き出し体験(写真左)を支援した。また、

中学校では、防災倉庫の点検やマンホールトイレの設置体験のほか、HUG(避難所運営ゲーム)を実施した(写真上)。

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

- 加子母出身の富山大学准教授が阿寺断層を研究していることを活用して、正しく最新の情報を入手し提供することができている。
- 画像や家具の模型などを使って、一般の住民や子どもたちにも理解しやすいような情報提供ができている。

＜参加者等から見た効果＞

- 阿寺断層による大地震や大雨によって起こるであろう災害に対して、何を準備したらよいかがわかる。
- 災害が起こる前に行動しようとするきっかけとなっている。
- 人ごとではなく自分のこととして考えることができるようになってきている。

自主防災会として最も重要なこと：それは安否確認方法の確立と継続実施

【活動内容の特徴】

自主防災会として最も大切な安否確認方法や体制を確立。

◆平成１８年にスタートし個人情報保護法にも負けずに各戸情報を一元管理出来ている。
◆小さな防災グループ体制と合わせて落合地区全体にも展開中。

【団体の紹介】

◆中津川市内全域
◆平成18年7月～現在(17年半)
◆実働人数45人、総人数120人
◆学校や地域、警察署、消防署、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、社協などと連携し地域防災力強化に取り組んでいます。

【アピールしたい防災活動の成果】

各戸の住民情報が共有できた。

◆継続で「個人情報」と言わなくなった。
◆本当に住んでいる人が把握できるようになった。
◆安否確認で最も重要なことは「最新の住民情報」と報告方法の複数化と言うことが判った。

安否確認が迅速にできるようになった。

◆反省を見直し繰り返し実施することにより正確、迅速にできるようになった。
◆健常者の把握も同時に行い未確認者の救援体制も迅速にできるようになった。

多くの地区で実施して欲しい。

◆市へ提言し防災訓練の共通課題となった。
◆令和6年能登半島地震の石川県対応の様に住民票からの安否確認では正確さは望めず、結果として求められる支援が遅れてしまい「助かる人」を助けられなくなってしまう。

①両隣の安否確認用資料

世帯名簿まとめ

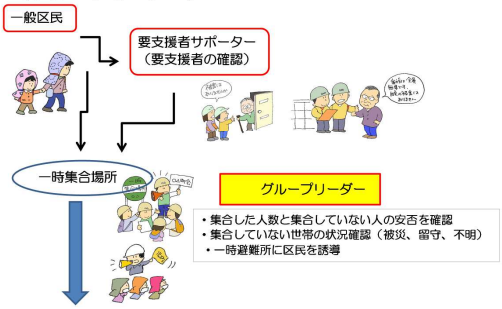
G	家族No		氏名	性別 男1 女2	生年月日 西暦	月	日	和暦	住所	Tel 携帯090-	確認チェック欄 来場	他確認済	何れかを入力	その他情報	誕生 到来 年齢	9/1時点での 年齢
1	1	1	[redacted]	1	1945	s	20	5.1	575-6	69-3339				65歳以上	70	70
1	1	2	[redacted]	2	1953	s	28	10.29						大人	62	61
1	1	3	[redacted]	1	1975	s	50	12.2						大人	40	39
1	2	1	[redacted]	2	1957	s	32	10.3	578-3	69-3559				大人	58	57
1	2	2	[redacted]	2	1924	T	13	6.1						65歳以上	91	91
1	2	3	[redacted]	1	1980	s	55	8.23						大人	35	35
1	2	4	[redacted]	2	1983	s	58	11.13						大人	32	31
1	3	1	[redacted]	1	1953	s	28	3.3	617-2	69-3755				大人	62	62
1	3	2	[redacted]	2	1952	s	27	11.6						大人	63	62
1	3	3	[redacted]	2	1929	s	4	12.14						65歳以上	86	85
1	4	1	[redacted]	1	1935	s	10	11.15	645-4	69-4274				65歳以上	80	79
1	4	2	[redacted]	2	1936	s	11	2.17						65歳以上	79	79
1	4	3	[redacted]	1	1965	s	40	4						大人	50	50
1	5	1	[redacted]	1	1963	s	38	7.27	552-12	69-3661				大人	52	52

②要支援者の安否確認用資料（2）

要支援者の名簿とサポーター

No	区分	班	氏名	西暦	月日	番地	電話	要援護者サポーター
1	ひとりぐらし	1	[redacted]	1942	2月28日	Feb-03	69－38263	[redacted]
2	ひとりぐらし	2	[redacted]	1930	1月20日	Mar-10	69－23064	[redacted]
3	ひとりぐらし	2	[redacted]	1932	11月8日	4491－44	69－14546	[redacted]
4	ひとりぐらし	2	[redacted]	1944	1月24日	Jul-96	69-51110	[redacted]
5	ひとりぐらし	2	[redacted]	1935	12月23日	9583-1	69-23291	[redacted]
6	ひとりぐらし	3	[redacted]	1933	4月1日	Mar-63	69-94867	[redacted]
7	ひとりぐらし	4	[redacted]	1944	7月22日	Apr-51	69－44219	[redacted]
8	ひとりぐらし	5	[redacted]	1936	3月11日	746	587	[redacted]

防災訓練時での安否確認
（グループリーダー）



【活動内容の詳細】

◆各戸の最新情報は冷蔵庫に保管。毎年８月に全戸の情報の見直しを実施している。
◆防災訓練ではこの情報を基に安否確認を実施。
◆毎回、役員やグループリダーでＰＤＣＡを実施し方法のレベルアップを図っている。
◆このための費用は殆ど掛かっていない。

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

◆当初は「個人情報だ。」と言って非協力的だった区民が減り要支援者や隣でも知らない人が把握できた。
◆この安否確認体制として3～5戸と小さな防災グループにしたため、活動の共有化が図れ防災訓練参加者も概ね５０％と大幅に増加した。
◆落合地区では５号区の安否確認事例から地区に合った方法を進めており、なぜ石川県の様になってしまうのか信じられない。

＜参加者等から見た効果＞

◆「自分の命は自分で守る。」だけではなく地域でも守られていることを気づいてくれた。
◆救助を求めている人が迅速に把握出来る事や、健常者での救援体制も出来ることから継続して実施していくことの必要性が理解できた。

身近な危険を知り みんなで作る安全 ～町の「安全マップ」作り～

【活動内容の特徴】

防災士自ら活動する

中川防災士会を中心に**毎年課題を決めて**、中川地区自治会、民生児童委員、小学校、中学校、大学などと**連携、協力し合いながら**中川地区の防災力向上に取り組んでいる。

【団体の紹介】

・大垣市中川地区19町
（人口17,426人　2022年3月末）
・2015年4月～現在（９年間）
・中川地区防災士会 会員人数
(実働人数 31／総人数 35名)
・2015年度より学校、その他団体と協働活動を実施

【アピールしたい防災活動の成果】

集会を通して小、中学生、見守り隊等の意見を取り入れ作成

2023年度防災活動、中川地区にある4つの指定避難所を中心とした町の「安全マップ」を作成した。
中川地区センター祭りで町の「安全マップ」を紹介、一般参加者の意見を追加記載し、地区全体で町の「安全マップ」を作成した。

4つの指定避難所別に作成

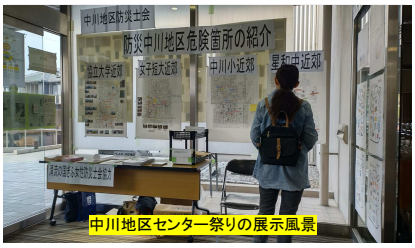
【活動内容の詳細】

地区自治会、防災士会、防災士、地域団体と連携の積み重ね

- 例　　年　防災訓練の取り組みを共有（見学し合う仕組み）
- 令和4年　ハザードマップの読み方を学ぶ
- 令和4年　家具固定の推進(自治会同士の連携)
- 令和5年　中川区内の4指定避難所（中川小,星和中,大垣女子短大,岐阜協立大）を中心とした「安全マップ」つくり説明会。
(参加者は防災士会,女性防火クラブ,民生児童委員他)

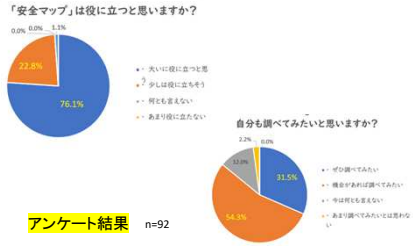
・防災士会は**「防災さんぽ」**を実施、**過去の災害碑などを見つける**
・防災士は自治会の人と共に自分の町を実際に歩いて点検。
・避難所別の地図を会員が協働で作り上げる。
・完成した地図を地区センター祭りに展示。
・中川地区センター祭りの参加者に、「安全マップ」に載っていない不安な箇所を記入してもらい防災士会が写真撮影し追加する。
・アンケートの回答を今後の活動に生かす。

身近にある災害の碑や説明板を探して歩く



中川地区センター祭りの展示風景

中川地区センター祭り参加者からの情報
通学路沿いの3m余りのコンクリート壁



アンケート結果　n=92

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

防災士会として一つのテーマに取り組んだことで、防災士同士の連帯感が生まれた。町歩きをすることで、小学校や高校の校庭が雨水の貯水場である看板を確認することができた。さらに多くの危険が潜んでいることを理解することができ、身近な危険を安全にするための活動意欲が生み出された。

＜参加者等から見た効果＞

・小４授業「災害からくらしを守る」の勉強に役に立った。・この地で過去の水害時避難者のお世話をしたことがありますが、それ以来縁がないのでちょっと油断してます。点検したいと教えられました。・これからの時代は防災に力を入れる必要がある。参考になりました。(アンケートより)

防災×探究　～ふるさと教育の一環として～

【活動内容の特徴】

ふるさと教育の一環として防災を探究する。

- 総合的な探究の時間での選択生徒の活動。
- 令和元年度から継続して活動している。
- 防災を通じて、ふるさとの課題と魅力を発見。
- これからもずっと地元に住み続けたいと願う生徒を育成する。

【団体の紹介】

- 大垣市浅中地域と海津市日新地域
- 令和元年4月から現在(5年)
- 実働生徒10名／過去参加生徒195名
- 実働教員　2名／過去参加教員6名
- 高校生と共に防災を通じて地域の方とつながり、ふるさとの良さを発見している。

【アピールしたい防災活動の成果】

南高を中心とした地域の防災ネットワークが生まれた！

- 通学区域の広い本校生徒同士が、お互いの防災課題を共有した。
- 地域の方を講師として、南高で多年齢層間交流が実現した。
- 平時から、南高が防災を考える拠点となった。

探究学習学年発表会

【活動内容の詳細】

過去の災害を知り、ふるさとの良さを知る。そしてこれからの生き方を考える。

(1)過去の災害写真を用いたワークショップ（R1）
- 浅中自治会長、輪中研究会、大垣市多文化共生課、大垣市民生委員、荒崎水害経験者の方々が来校。
- 生徒34名が、過去の災害と体験談を学んだ。

(2)治水関連の施設巡り（R2～）
- 歴史民俗資料館、治水神社、さぼう遊学館、輪中館、宝暦治水関連の寺院などを見学。
- 生徒5名が、ふるさとの昔の暮らしを学んだ。

(3)海津市長へのインタビュー（R4）
- 生徒5名が、海津市役所を訪問。
- 災害時の備蓄品やマンホールトイレの数を聞いた。
- WEB版災害・避難カードの作り方を習った。

(4)文化祭PR「南高が避難所になったら」(R4&R5)
- DIG＆HUGの体験。掲示物のデザインの考案。
- ハザードマップの配布。非常食、簡易トイレの展示。
- 生徒10名が、生徒・保護者に防災をPR。

治水神社

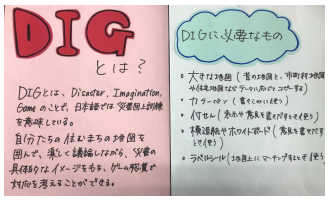
ワークショップ

歴史民俗資料館

インタビュー

防災用品体験

ピクトグラム



DIGの説明

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

- 指導者（教員）自身も南高周辺のふるさとの良さを学んだ。
- 南高（学校）として、近隣自治会長や地元防災士とのつながりができた。
- 防災選択生徒10名の探究活動によって全校生徒・保護者・教職員約800名に南高が避難所なった場合を想定してもらえた。

＜参加者等から見た効果＞

- 生徒からの声
  海津で水害とうまく付き合っていく方法を地域の方と見つけていきたい。これからもふるさと海津でずっと暮らしたい。
- 地域の方からの声
  南高を身近に感じた。もっと南高生と関わりたい。避難所になったときも頼むよ！

「自分の命は自分で守る」子の育成

【活動内容の特徴】

「自分の命は自分で守る」防災教育の実践

平成23年の集中豪雨で浸水被害を受けたことを契機に、上之郷小学校では家庭や地域と共に防災教育を継続して行っている。「自分の命は自分で守る」を合言葉に、命を守る訓練の他、防災について全校で学ぶ「ぼうさいかみのごう」の設定、年間を通した全学年での防災学活、4年生を対象とした防災教室、全校親子防災教室を位置づけ、防災・減災意識を高めている。

【団体の紹介】

・可児郡御嵩町上之郷地区
・平成24年～令和5年（１2年）
・児童75名職員11名保護者５１名(令和５年度)
・『学校と家庭、地域で取り組む防災教育』
学校での学びだけでなく地域の防災課や防災リーダーから児童・保護者が学ぶ機会を位置づけている。

【アピールしたい防災活動の成果】

親子で実践　～地区で起こりうる災害と備えについて考える～

　親子防災教室では、始めに５・６年生から防災・減災について学んだことや考えたことを全校児童や保護者に向け発表した。その後、地域の防災リーダーを講師に、上之郷地区で起こりうる災害と備えについて、ハザードマップを親子で確認しながら避難場所や避難ルートについて話し合った。

【活動内容の詳細】

学校での学びで意識を高め、家庭・地域とつなぐ

①学校での学びで意識を高める
　毎年行う命を守る訓練の他、「ぼうさいかみのごう」として、自然災害について全校で学ぶ時間を設けている。6年生が主催したミニ集会で、災害時の備えや日常でのけがの防止について全校の意識を高める働きかけを行った。その他、各学年での「防災学活」、通学路で被災した際の行動を考える通学分団会を実施し、具体的な避難行動のあり方を話し合い、訓練を行った。
②学校と家庭・地域をつなぐ
　岐阜県危機管理部防災課より講師を招き、5・6年生が「災害・避難カード」を作成し、自宅に持ち帰って家族で相談して災害時の行動につなぐ学びを行った。
　4年生では社会科との横断的な学習として総合的な学習の時間に防災教室を実施している。御嵩町防災コミュニティーセンターで町の防災課の方や防災リーダーから、より具体的に町の防災対策について学んだ。さらに本年度は参観日での社会科の授業で、町のパーテーションテントの中で避難所運営シミュレーションを行い、災害時での行動について親子で深く考えることができた。

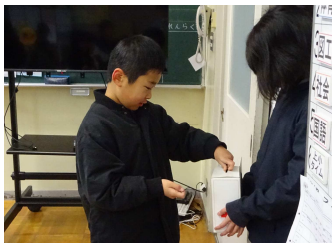
【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

　日頃からの防災学習や命を守る訓練により、地震発生時の避難行動がすぐにできる力をつけた。令和６年１月１日に発生した能登半島地震を教訓に、全ての児童が自分で考え、自分の命を守るための行動をとることができる学びのあり方を再構築している。冬休み明けには、被災地支援として６年生が募金を呼びかけ、児童が自分事として考えるようになってきた。

＜参加者等から見た効果＞

　親子防災教室や４年生の防災教室では児童からも防災・減災について学びを発表し、保護者や地域住民の意識が高まった。能登半島地震の募金活動では、児童や保護者からの積極的な募金の他、PTAからも募金を補助する動きがあった。「自分の命は自分で守る」ために、災害時の備えを万全にしていこうと、意識が高まってきている。



カードゲームと身の回りの日用品を活用！
クリエイティブで遊びながら学べる防災教室を

【活動内容の特徴】

防災教室を通じて岐阜の大学生と地域が繋がる

体験型防災教室を強みとする**岐阜大学学生保安消防隊**と専門的な知識を強みとする**災害医療大学**が手を組み、出張型の防災教室を開いている。地域の公民館・施設・企業と協力することで、小学生から高齢者まで幅広い年代を対象として活動中。

【団体の紹介】

- 岐阜県岐阜市 令和5年11月～現在
- 岐阜大学学生保安消防隊
  (実働４名/総勢６名)
- 災害医療大学ボランティアメンバー
  (実働10名/総勢10名)
- 学校間の垣根を越えて活動している

【アピールしたい防災活動の成果】

防災を楽しく、遊び心満載でクリエイティブな防災教室

防災が楽しく、日常の一部になることを目標に、**カードゲーム**で遊び、日用品を活用する知識をつけた。日用品を用いた**体験型の工作**により、子どもの遊び心・自由な発想、大人の経験から得られる知恵を取り入れながら、**参加者と一緒に**防災教室を作り上げた。

【活動内容の詳細】

カードゲームで知識を　新聞紙を体に巻いて実体験を

防災教室はカードゲームと体験の二部構成で行う。

・**カードゲーム**は災害医療大学が開発した「避難所サバイバル」。日用品を用いた、災害関連死を防ぐための**衛生対策、応急手当の知識**を学ぶことができる。カードゲームとして遊びながらに防災に触れてもらうことが期待される。加えて、ルール設定やゲーム内容を子どもたち自身で工夫する様子も見られた。

・**体験活動**では、カードゲームで得た知識を用いて、新聞紙やビニール袋などを用いて実際に体験する。体験を通じて**具体的に何を備えるべきか、どのくらい備えるべきか、どのように工夫したら活用できるか**を参加者自身が考えるきっかけとする。

防災教室を以下のように開催し上記の目標を達成した。
〇敷島産業(株)お麩祭り（約20名）本巣市
〇児童センター サンフレンドうずら（25名）
〇学童保育ヒトノネ 美島教室（30名）
〇岐阜市華陽公民館（42名）
〇シェアスペース SFIDA（10名）岐阜市黒野

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

子どもたちが、災害発生時だけでなく日常でも活用できる「自分の健康を守る知識」を**遊ぶ中で覚えてくれた**。我々と地域の方々はもちろんのこと、上級生と下級生、地域の人同士の繋がりが生まれる防災教室となった。今後の防災・減災の担い手となる子どもたちが防災に興味を持つきっかけになったと考える。今後も引き続き活動していく。

＜参加者等から見た効果＞

〇児童センターのスタッフ談
「子どもたちがこんなに食いつくとは思いませんでした。**身近なもので対策できる**ので子どもたちも想像しやすいんだと思います」
〇小学校4年生談
「楽しかった！水とか布が便利ってわかったし、**新聞紙の腹巻きをお母さんに自慢する**」

みんなとつながる・みんなに広める防災
～自分と周りの大切な命を守れる存在になるために～

【活動内容の特徴】

文化部の活動目標は「地域と学校に貢献する～みんなとつながる・みんなに広める～」としている。防災に関してだけでなく、新聞エコバックを作り地域に配ったり、学校の花壇の世話をしたり、幅広く貢献活動をしている。中でも、防災については昨年度に引き続き力を入れて取り組んできた。防災士の資格を取っている2名を中心に、元消防長である坂場校務員さんの指導のもと、今年度は、特に自分たちが得た知識を学校と地域に発信することや、地域と学校をつなぐことを重点にして活動してきた。

【団体の紹介】

・飛騨市立神岡中学校
・活動期間　令和3年１月～現在
・部員数14人（内、防災士2名）
・協力者
　Edo手嶋さん、坂場校務員さん
・防災に関しては、貢献活動の一環として部活動で自主的に取り組んでいます。

【アピールしたい防災活動の成果】

自分たちが得た知識を学校、地域で広めた

自ら校内にある防災設備の使い方を学んだり、地域の危険な箇所を調べたりした。そのことを学校や地域に広め、いざという時に自分や周りの人を守れる人を増やすため、自助・共助を大切に活動してきた。
「自助」校内防災マップを作り、誰もが防災設備の使い方が分かるようにした。
「共助」自分たちで企画・運営した防災タウンウォッチングで地域の人とつながった。

【活動内容の詳細】

防災知識を「分かりやすく」校内や地域に広げた！

〈防災タウンウォッチング〉

災害時に地域の中で、**自分や周りの人の命を守れる存在を増やすため**に行った。神岡町の小・中・高生に募集をかけ、参加者と地域の防災士さん、先生など含め総勢40名が集まった。3チームに分かれ、**文化部が考えた町中にある防災ミッション**を解きながら歩いた。**実際に、危険水域の印を見たり、公衆電話のかけ方を体験したりする**ことで、一人一人が自分が住む町の防災について学ぶことができた。

〈校内防災マップの制作・掲示〉

校内の消防用設備等の場所を確認したり**実際に使用してみたり**した。そして、**誰でも簡単に使えるように**、使い方や場所をマップにまとめ校内に掲示した。**分かりやすいように写真やイラストを入れたり説明文を簡潔にまとめるなどの工夫**をした。

〈「命を守る訓練」のスライド制作・発信〉

学校が行う**「命を守る訓練」**で、校内の危険箇所や命を守る行動をまとめたスライドを作り、全校へ発信した。イラストや写真なども交えて、**一目で内容が理解できるような工夫**をした。

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

・実際に自分たちの目で見たり、使ってみたりしたことで、**企画するときのイメージが持ちやすくなり**、当日の**参加者への説明も自信をもってできた**のでよかった。
・地域の防災士や、教育委員会の方々の協力のもと、**幅広い年齢の人と防災について交流をすること**ができ、**繋がりをつくること**ができた。

＜参加者等から見た効果＞

・「防災タウンウォッチング」では、ミッションを通して、**自分たちの町を防災という視点で見たり、体験したり**することで、実際に災害が起こったときに**同じ場で役に立つ防災知識**を得ることができた。
・「校内防災マップ」は、文字や言葉だけではなく、写真やイラストを交えて提示したことで、**視覚的に分かりやすかった。**

なかまと　まちを　ずっと守ろう
（垂井町東地区なまずの会）

【活動内容の特徴】

活動内容の特徴を一言で

メンバーの一人が常に口にする言葉が、活動内容の特徴を表しています。「誰かえらい人の話を聞いて、やらされてきたわけとちがう。**好きなこと**を言うてたら、ここまで来た。」誰もが生き生きと発言し、活動できる場を続けています。

【団体の紹介】

・垂井町東地区
・2016年度～現在まで(8年が経過)
・実働人数10人／総人数15人
・「誰かに言われてやるのとちがう」みんなでアイデアを出し合って、楽しく地域防災に取り組んでいます。

【アピールしたい防災活動の成果】

アピールしたい防災活動の成果を一言で

誰かに依存しながらやるのではなく、住民が主体となって動くことで可能性を拡げています。**楽しく**、自由に、アイデアを出し合って、行政、社会福祉協議会、NPOなどとも**協働**しながら、多様な防災活動を**継続**できていることが、一番の成果です。

【活動内容の詳細】

活動内容を一言で

★第一期（2016年度～2018年度）
「多様な住民参画による住民主体の災害時対応計画策定」
・災害体験聞き取り、先進地見学、各種レクチャー・ワークショップ開催、防災まちあるき、防災マップづくり、小学校での啓発事業など

★第二期（2019年度～2021年度）
「住民主体で地域の防災力パワーアップ」
・先進地見学、避難所運営体験、オンライン講演・ワークショップ、通信発行など

★第三期（2022年度～現在）
「自治会単位の自主防災組織の活動活性化」
・先進地見学、避難所運営体験、オンライン講演・ワークショップ、通信発行など

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

主体となっている住民が楽しみながら、意義を感じて継続できているのが最大の効果です。それが、周囲に伝播し、世代を超えてのつながりが生まれてきています。行政、社会福祉協議会、有識者、NPOなどとも協働を重ね、垂井町東地区では住民主体の防災活動が当たり前のこととなりつつあります。

＜参加者等から見た効果＞

形式ばった活動ではなく、実質を重視する活動なので、誰もが参加しやすく、小学生や中学生も楽しみながら、活動に参加しています。行政や社会福祉協議会、NPOなどとの協働も進んでおり、垂井町の他の地区との交流も図りながら、垂井町内の住民主体の防災活動の先頭を走り続けています。

子ども達に防災の大切さを伝える防災士女子会

【活動内容の特徴】

女性目線＆SDGsを意識したオリジナル防災啓発

大型紙芝居、リズム遊び、シールワークなどオリジナル教材を作成し、対象地域の過去の災害被害の紹介などその都度プログラムを作成。学年に応じた体験型のワークショップや地域カスタマイズしたクイズ等を通して楽しく防災を考える活動をしている。

【団体の紹介】

・高山市
・令和3年秋～(約2年半)
・メンバー５名
　まちづくり協議会事務局女性職員
・年齢に応じた防災ワークショップを行い、地域の防災力の向上を目指す

【アピールしたい防災活動の成果】

ゆるやかにつなぎ広がる防災意識　～子ども達から地域へ～

①5つのまちづくり協議会の事務局職員の連携で防災啓発のレパートリーや災害アーカイブ、協働する市民活動団体等が増え、広く住民の防災意識を高める活動
②子どもから家族や地域に防災の関心を広め、持続可能な防災啓発

【活動内容の詳細】

楽しく防災を考えるきっかけづくり

①保育園・小学校・中学校・放課後児童クラブでの防災啓発
　地域学校協働活動の一環として学年に合った防災学習の実施
　　紙芝居・リズム遊び・シールワーク・パッククッキング
　　教科書の内容や地域アーカイブによる資料作成
②女性目線の避難所運営についての説明
　高山市総合訓練でのプレゼン　トイレ・授乳・物資配布等
③高山市全域でのオンライン防災意識調査(SDGsの観点)
　まちづくり協議会のネットワークや多くの市民活動団体の協力
②ひだ財団の助成金を使った商業施設での親子対象防災イベント
　広く子育て世代を中心とした防災啓発　☆託児スペース確保
　NPO飛騨高山わらべうたの会・もふっこ協働
　　☆③の結果より　備蓄・ペット啓発
⑤地区防災計画ワークショップの実施
　ラベルワークや地図を使った参加型
⑥イベント参加
　SDGsウィーク　まちづくりフォーラム等

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

・学年に応じた防災学習を取り入れる学校や放課後児童クラブ等が増えてきた。
・調査の結果を活かすことによりよりピンポイントの防災啓発を実施することができた。
・市民活動団体からの協働の申し出があり、防災関係のつながりが増えた。
・地域の実態にあった啓発は効果が大きい。

＜参加者等から見た効果＞

・防災の勉強は楽しいからまたやりたい。
・防災は大切なのでもっと勉強して、知らない人に広めていきたい。
・家族で備蓄品を見直すきっかけになった。
・地震からの身の守り方を伝えることで能登半島大震災の時に活かすことができた。
　(以上、児童生徒・家族感想より)

審査委員長講評

副センター長の能島でございます。

本日の第５回防災活動大賞には９件の応募を頂戴しました。
圏域は、岐阜圏域が１件、東濃圏域が２件、中濃圏域が１件、西濃圏域が３件、飛騨圏域が２件と全域から応募がありました。

９件のうち４件が小学校、中学校、高校、大学という教育機関で、それぞれの学校の中で、あるいは社会に開かれた活動ということで多様な活動の報告がなされました。
それぞれの取り組みの継続性については、数ヶ月、2.5 年や 3 年、5 年、8 年、長いところでは 12 年，17.5 年と非常にバラエティーに富んだ活動が報告されました。この防災活動大賞は 5 年を経過しますが、それよりも以前から活動をなさっている団体もおられました。また、地域、職場、学校の中で、いろいろな困難に立ち向かい、試行錯誤を繰り返し、いろんな取り組みも参考になされたことは、本当に学ぶべきところが多いご発表であったと言えます。

冒頭に、審査基準の説明がございましたけれども、この基準がなければ、どれも賞に値すると言えます。今回は、評価基準に照らして審査した結果、防災活動大賞を４件、「みんなの特別賞」を１件、選定しました。
本日は、プレゼンに加えて、交流の時間を十分に確保し、充実した時間を過ごしていただいたと考えています。今回の情報を持ち帰り、皆様の活動の継続性、そして防災減災効果の向上に役立てていただきたいと考えています。
本日はありがとうございました。

清流の国ぎふ 防災･減災センター　副センター長　能島　暢呂